

How Did We get Here?

Why Black Lives Matter

Ms. Jessica Perez(米国)

Black Lives Matter (通称: BLM、「黒人の命は大切だ」という抗議の運動が、発信地のアメリカから世界中に広がっています。黒人を逮捕・拘束する際の警察官による残虐行為に抗議するものです。今年に入ってからかなりの黒人が警察官によって理不尽に殺されています。米国でも多くの人々が差別反対の声を挙げているのに、なぜこんな残虐なことが繰り返されるのか。ジェシカさんは奴隷制度以来の根深い人種差別意識、産業界・警察・刑務所等が一体になった制度的な問題があり、「改善のためにどうしたらよいか」と、用意した多くの資料を示しながら熱っぽく語りました。



ジェシカさんはアフリカ系とラテン系のアメリカ人。6年前、ニューヨークから来日。大阪・和泉市に住み、堺市で英語の教師をされています。

最初に示されたスライドは、カリフォルニア大学名誉教授で活動家のアンジェラ・デイヴィスさんとその言葉。

「人種差別主義社会では、非人種差別主義者であることは十分ではなく、私たちは反人種差別主義者でなければなりません」。そして、次のスライドで「変えるための行動を起こすには、まず、知ること、話すこと、学ぶことが重要です」と呼びかけました。

ジェシカさんによると、アメリカは世界から民主主義のロール・モデルとされ、アメリカンドリームのヴィジョンを提供してきたが、現実には多くの人にとって悪夢でもある。

まず、今年5月、ミネアポリスのデリ(日本のコンビニのような店)へ買い物に来た黒人のジョージ・フロイドさんが犠牲になった例から。彼が差し出した紙幣を、店員が偽造札ではないか、と疑い警察に通報した。駆け付けた警察官の一人がフロイドさんの首を8分46秒も



This is George Floyd. On May 25, 2020, he was killed by a police officer in Minneapolis, Minnesota.

ジョージ・フロイドさんと抗議の市民たち

膝で圧迫して死亡させた。他の警察官も足や腕を押さえつけていた。フロイドさんは「息ができない」「殺さないでくれ」と叫んでいた。その残虐で悲しい逮捕の様子が現場にいた人のビデオで撮影されていた。ソーシャルメディアで世界中に流され、日本も含めた多くの国で「BLM」を叫ぶデモが広

がった。

ジェシカさんが示した資料によると、2015年1月からフロイドさんの死まで、1252人の黒人が警察官によって射殺されている。死亡しなくてもその後、肉体的、精神的なトラウマに苦しむ人が多い。

BLM 運動は昔から続く警察官による人種差別意識と残虐性に抗議するもの。

この10月、テニスの全米オープン女子シングルスで優勝した大坂なおみさんを取り上げました。大坂さんは警察官による不当で残酷な逮捕により犠牲になった7人の黒人の名前を書いたフェイスマスクを試合中に着けて戦い優勝。

全米オープンで、7人の犠牲者の名をマスクに書いて人種差別に抗議を示した大坂なおみ選手

「世界的に著名な若い黒人女性のこの行為は人種差別反対運動を続ける人たちに大きな力を与えた。大坂さんは愛と称賛を受けた。が、同時に多くの人から反感と憎しみも受けた」と、命の危険もある勇気を称えました。



大坂なおみがマスクに名前を書いた7人の犠牲者についてかなり詳しく調べ、スライドで説明。このうちの一人の黒人青年は、二つの女性グループの喧嘩を止めようとしていたが、駆け付けた警官から3分も立たないうちに7発の銃弾を受けた。警察官が、彼が以前に法的トラブルを起こしていたらしい、ということを知って、現場に到着したとたんに、この青年をターゲットにした。車の後部座席で見ていた彼の3人の子供は生涯、トラウマに苦しむだろう。

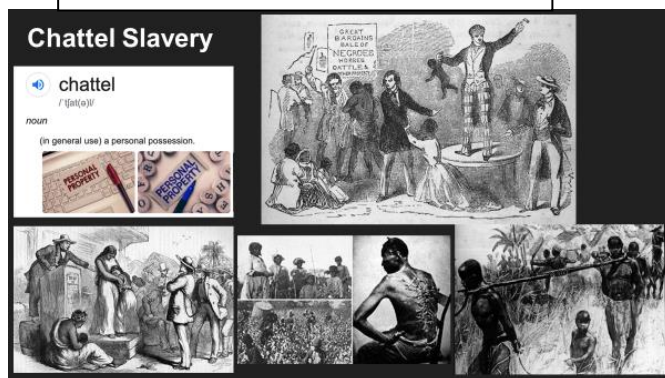
現在、アメリカでは多くの警察官はボディカメラとレコーダーを装着しているから、真偽のほどは調べればすぐにわかるのに、警察官が訴追されることはほとんどない。アフリカ系だけでなく他の有色人種に対しても差別的扱いと偏見が続いている。



なぜ、こんなひどいことが続くのか？

コロンブスがアメリカ大陸にやってきて以来、8000万人から1億2千万人と推定される先住民が大量虐殺されたと言われている。また、彼らの社会や文化、宗教を力づくで変えさせた。一方、アフリカから連れてこられた黒人たちは労働のための財産（物）として売買され、人間として扱われなかった。奴隷制度は250年ほど続いた。リンカーン大統領の奴隷解放宣言があり、1964年には黒人の人権を認め、差別撤廃を定めた公民権法も制定された。しかし、現実には人種差別は根深く続いている。

黒人たちは奴隷として売買された



アメリカの警察の原型は民兵で、これは白人のグループが、逃げ出す黒人を捕まえるのが目的で産まれた。私的な制裁であるリンチを行ったり殺害したりした。警察が誕生してからも警官、州政府の役人たちは、民兵の行為を咎めることはなかった。白人にぶつ

っただけでリンチを受けた黒人もいた。

2015年の統計では、非武装の黒人は非武装の白人の5倍の割合で警察に殺害されている。この年、事件の99%で警察官の行為は有罪判決を受けていない。

これについてジェシカさんは「非常に説明しにくいアメリカ独特の刑務所制度」が大きな理由という。

「アメリカの刑務所制度は犯罪者を更生させるためにつくられておらず、財政的、私的利益のために運営されている」という。企業による受刑者の雇用が許可

され、民営の刑務所もあり、産獄複合体と呼ばれる利権集団ができています。健康保険などの負担を負わずに囚人たちを低賃金で長期間働かせ、企業、刑務所などが安定した利益を得る、というシステム。これに警察、厳罰主義を唱える政治家などもからんでいるため、収監者の数を維持する・増やすということが行われる。「産獄複合体が、現代的奴隷制度を維持するための抜け穴になっている。今日のアメリカの刑務所には 1850 年に奴隷にされたよりも多くの黒人男性がいる」（ジェシカさん）と、仕組みのひどさを説明しました。弱者が不利になるシステムが構造的に組み込まれている。

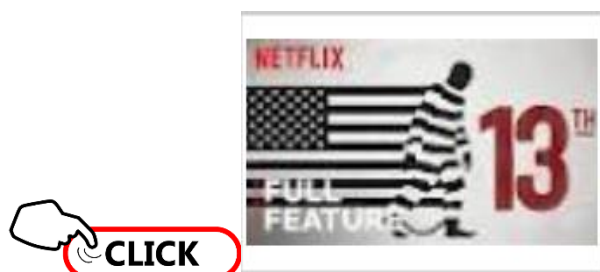
こういう実態があるから BLM の運動が必要になる。運動の 93% は平和的だ。しかし、メディアは、映像的に迫力のある破壊的、暴力的なシーンを大きく扱い、国民に誤解を与えている。

このほか、黒人が生んだ音楽、ファッション、ダンスなど芸術、文化など各方面で、アフリカ系アメリカ人たちは多くの不利益を被っている。世界的に著名なアメリカの歌手、音楽、絵画などの中には黒人たちが生み出したものも少なくないのに、その著作権などは無視され、勝手に利用、使用されて被害を受けている。

しかし、ジェシカさんは「私はいろんな痛みがあっても、この国を憎んでいない」。「いつか、外交官かジャーナリストになってこの国を変えてゆきたい。また、芸術、音楽など創造的な仕事も追及していきたいです」と語りました。



最後に「今日のスピーチのために原稿を書き、いろいろ調べることに力を与えてくれたビデオです。本日、出席の皆さまとこのメッセージを共有させていただきたい」と以下の映像を紹介しました。You Tube から下記の画面を開いて下さい。



以上